

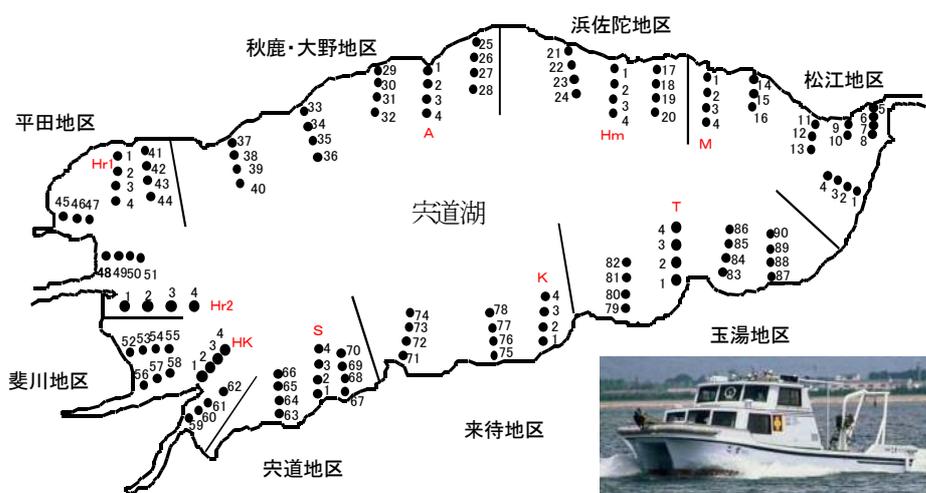


とびっくす No.84

(本誌はホームページでもご覧いただけます。http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/)

平成 30 年度春季ヤマトシジミ資源量調査結果 ～資源は高水準だが、水温・塩分、水草に注視も必要～

水産技術センター内水面浅海部では、毎年 6 月(春季)と 10 月(秋季)に宍道湖に生息するヤマトシジミ(殻長 2 mm 以上)の資源量を推定するための調査を行っています。今年度の春季調査は 6 月 20 日および 22 日に実施したので結果を報告します。



調査船「ごず」

図 1 調査地点

調査方法

図1に示す調査定点(126ヶ所)において調査船「ごず」を使用し、スミス・マッキンタイヤ採泥器で各定点2回(面積 0.1 m²)、湖底の砂泥と一緒にヤマトシジミを採集しました。採集した砂泥サンプルは、目合いの違うフルイでサイズ別に選別し、生息密度と水深別の漁場面積から宍道湖全体の資源量を計算しました。

表1 ヤマトシジミの資源量

サイズ		重量 (トン)	個体数 (億個)
未成貝	殻長 12 mm 未満	9,378	867
	殻長 12 mm 以上 17 mm 未満	20,021	246
成貝	殻長 17 mm 以上 (漁獲対象)	42,653	172
全資源量		72,051	1,285

調査結果および考察

ヤマトシジミの資源量(表1)は約 7 万 2 千トン、1,285 億個が生息していると推定されました。宍道湖のヤマトシジミ資源量の推移(図2)をみると、平成 25 年秋季の急激な増加以降は、平成 28 年秋季と平成 29 年春季に平年並みまで低下したものの、それ以外は高い水準にあり、今季は平成 10 年以降の春季平均値(3 万 9 千トン)の 1.8 倍と、極めて高い水準になりました。また宍道湖のヤマトシジミの資源量は通常秋季から春季にかけて減少しますが、今回はわずかながら増加しました。

成貝(殻長 12 mm 以上)については約 6 万 3 千トン、418 億個で、このうち漁獲対象となる殻長 17 mm 以上は約 4 万 3 千トン(全資源量の 59%)、172 億個でした。漁獲対象資源の 4 万 3 千トンは、サイズ別の報告のある平成 14 年以降の平均値 1 万 5 千トンを大きく上回っています。

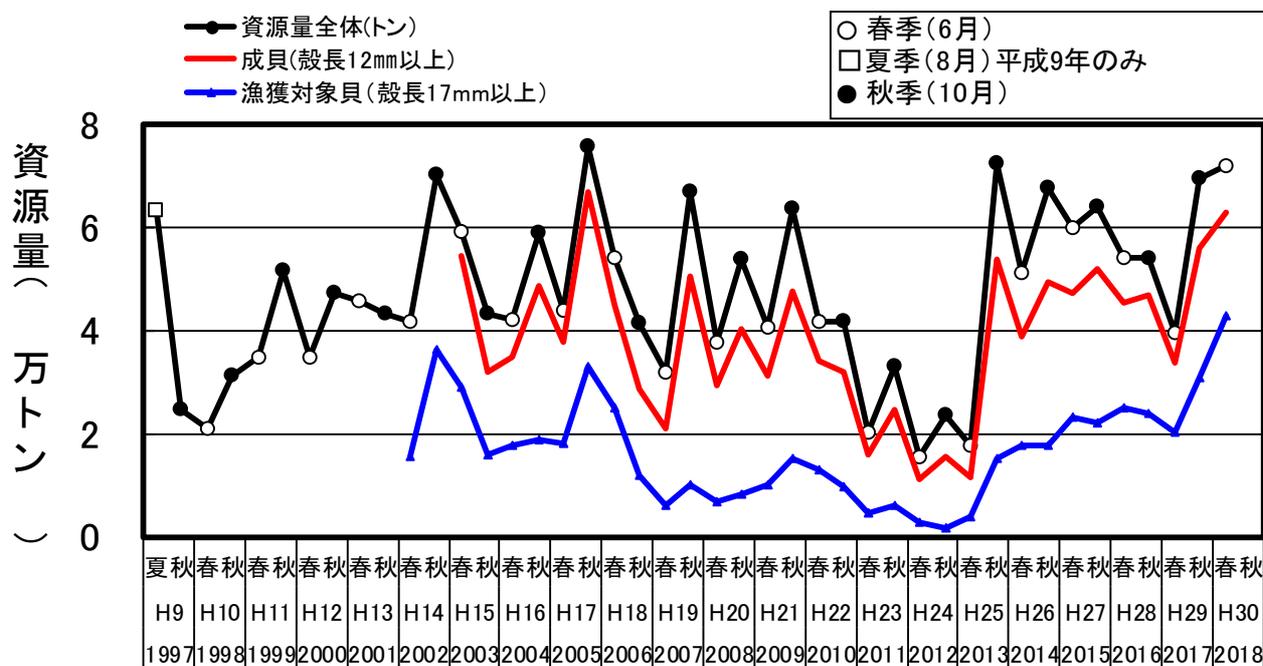


図2 宍道湖のヤマトシジミ資源量の推移

今後の見通し

とびつくす No.81(平成 29 年度秋季ヤマトシジミ資源量調査結果)では、シジミ資源の増加は餌環境の好転によるものと推測しました。平成 29 年秋の豊富な資源量が今期も維持された結果、殻長 17mm 以上の漁獲対象資源は 4 万トンを超え、平成 14 年度以降では最高となりました。殻長組成を図 3 に示しましたが、新規加入した 5 mm 程度の小型貝は例年と同程度ですが、漁獲対象となる 17 mm 以上の貝は資源量が多かった平成 29 年秋季よりもさらに増加していました。

今夏のシジミ漁業については、大きな環境変化がなければ、安定した漁獲が継続され、その資源水準の高さから漁獲物の大型化も期待できると考えられます。また、新規に加入する漁獲対象資源についても、殻長 12mm 未満が 9 千トン(過去 15 年平均:8 千トン)、殻長 12~17mm が 2 万トン(過去 15 年平均:1 万 8 千トン)と、ほぼ例年並みであり、今後安定的に推移することが予測されます。

しかしながら、今梅雨は比較的雨量が多く、また梅雨明け直後から気温が非常に高い状態が続いていることから、今後の水温や塩分等の推移、水草の繁茂状況なども注視する必要があるといえます。

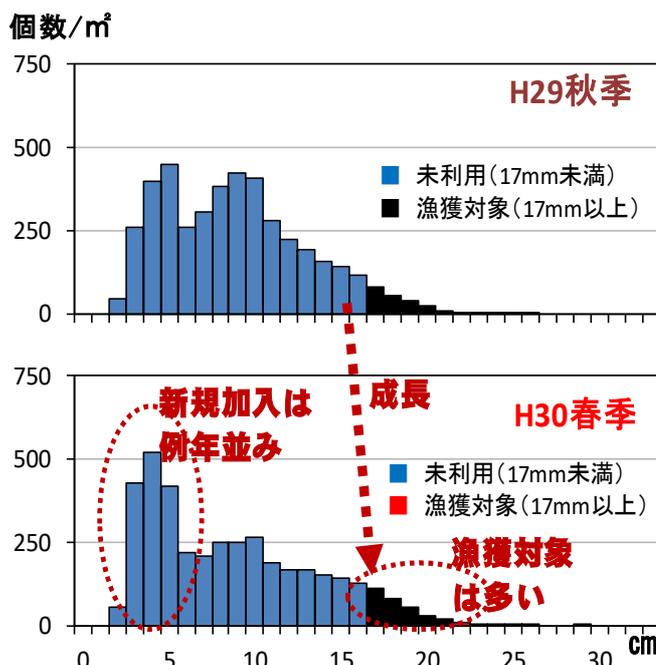


図3 宍道湖全体のヤマトシジミの殻長組成 (平成 29 年秋季と平成 30 年春季)

島根県水産技術センター

島根県浜田市瀬戸ヶ島町 25-1

TEL:(0855)22-1720 FAX:(0855)23-2079

ホームページ: <http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>

E-mail: suigi@pref.shimane.lg.jp